



西中だより

平成29年2月号

☎ 553-1434

生徒数 420名

認め合い高め合い支え合う学校で

夢と理想を掲げ、よりよい社会を創造する西中生を育てます！

校長 篠田 豊和

『姿勢』を正して学力向上を

先月は一年生のスキー学校、二年生の職場体験学習、があり、それぞれ充実した活動ができました。この経験を生かして次の学年に繋いでほしいものです。また、三年生は私立高校の入学試験があり、進路が決定した生徒もいます。「おかげさまで合格しました」と校長室まで報告に来てくれる生徒には「これからがスタート、自分のためそしてみんなのために頑張ろう」と励ましています。



さて、近年は学力向上が

学校教育の大きな課題となっています。文科省の全国学力学習状況調査の都道府県別平均点の順位がマスコミ等で大きく取り上げられたことも影響しているところです。先日学力向上に関する講演会で、なるほど本校の生徒にも大変参考になるという話を聞くことができました。それは学力が上がる生徒は『姿勢がいい』ということです。そのほかにも『あいさつができる』『時間を守る』『掃除（整理整頓）ができる』ということも聞きました。

私も普段から授業中の生徒の『姿勢』をよく観察しています。それは『姿勢』＝『意欲』だからです。学力に関する研究者や教育関係者は学力向上の根底にあるのは学習に対する



意欲・関心・態度であり、それが学習習慣を形成し、学力向上が図られると指摘しています。

三学期になって急に姿勢がよくなった生徒がいます。スキー学校や職場体験学習を経て、自分のやるべきこと、目指すべきことがわかり、意欲が向上し、『姿勢』もよくなったのでしょう。今後も西中生全員の姿勢がよくなるよう私自身も注意深く見ていくつもりです。

『姿勢』の他にあげられた『あいさつ』『時間』『清掃（整理整頓）』も直接学力向上に関係ないように感じますが、社会生活上では大変重要なことで

す。よく、「花が咲くには枝葉が大切、枝葉が伸び、広がるためには幹が大切、幹が太くなるためにはしっかりと根が大切」といわれます。花だけきれいに咲かせることはできません。目には見えない根っこを大事にしたいものです。

